

【团体支援寄附】

—全5事業（5団体）—

特定非営利活動法人 日本サービスドッグ協会

葛城市新村210

【事業名】

引退補助犬支援活動・啓発事業(ペットシートの購入・会報60号印刷)

【補助金額】

161,500円

補助事業の実施内容

引退補助犬支援活動の事業として、ペットシートを購入して、引退犬ボランティアに支給しました。大型犬は尿量も多く、1日の使用数が多いため、「すごく助かります!」と喜んでいました。

また啓発事業として、会報60号を作成・配布し、多くの方に当協会の活動を知っていただき、協力を募ることができました。

今後の活動に向けて

2021年度も新型コロナウイルス感染症の感

染拡大により、街頭募金やイベントが中止になり啓発活動がなかなかできておりません。人の為に頑張っている引退補助犬たちに広く支援ができるように、今後は感染予防に務めながら少人数での街頭募金を再開して、活動資金の調達をしながら、医療費や介護用品支援の充実を図りたいと思います。



▲ 事務所と作業風景と会報60号

特定非営利活動法人 家族・子育てを応援する会

北葛城郡広陵町
大字三吉 379 番地

【事業名】

乳幼児の親子広場活動と地域への子育て支援の啓発活動

【補助金額】

190,000円

補助事業の実施内容

本会では、子どもの健やかな成長を願い、「つながる」・「継続」・「共に」・「発信」をモットーに、専門職のスタッフが、乳幼児の親の思いに寄り添う子育て支援事業を創り出してきました。

子育て家庭とつながれる、乳児と乳幼児を対象とした対面式の親子広場を年に数回開催しました。新型コロナウイルス感染症の感染状況により対面式で開催出来ない時には、個別の相談に応じたり、郵送で家庭とお便りのやり取りをしたりしました。当会からは、子育ての情報や親の思いを掲載した通信、親子で楽しめる資料と共に返信葉書を郵送し、また家庭から届いた葉書は通信で紹介しました。双方向でお便りのやり取りすることで気持ちがつながり、保護者に安心感が生まれました。

また、子育てを地域全体で支えることが必要であると考え、啓発活動のために、親の思いや支援活動、支援のお願い等を通信やパンフレットに掲載して、地域に発信しました。さらに、多世代の地域住民が共に「子育て」や

「家族」について考えることができる展示会や講演会を開催して、地域の皆様の共感を得ることが出来ました。

今後の活動に向けて

社会の状況が変化する中、子育ての事情は個々の家庭によって異なり、その事情に応じた親子に寄り添う子育て支援が必要です。対面やオンラインの親子広場、個別相談等、知恵と力を結集して支援の形態を模索し、家庭で安心して子育てに向かえるような支援を地道に継続したいと考えています。今後も、乳幼児の親子に寄り添いながら、行政・関係機関や地域住民の方々とも連携し、子育て支援の必要性を地域に発信することで、子育てを地域全体で支えるまちづくりに寄与することを望んでいます。



▲ 親とつながり、地域に発信する子育て支援

特定非営利活動法人 奈良国際友好交流協会 Nakamaro

橿原市今井町4丁目8番20号

【事業名】

菜食主義外国人観光客に対応するための指針づくり
「ベジタリアン・ビーガン対応マニュアル」の作成

【補助金額】

90,178円

補助事業の実施内容

国際交流事業を行うにあたり「ベジタリアン・ビーガン」と称される菜食主義者の対応に戸惑う場面が増えてきました。そこで菜食主義者への対応を基本にした、指差しによって対応ができる簡便なマニュアルのリーフレットを作成しました。

内容は菜食主義者への対応のみならず、食文化の多様性や食物アレルギー、また多言語への対応にも配慮しました。リーフレットは観光案内所やホテル・レストランなどに無料で配布の予定をしています。

今後の活動に向けて

2021年に開催された東京オリンピック・パラリンピックでも食の多様性(フードダイバーシティ)は大きな課題

でした。2025年には大阪EXPO25の開催が予定され、日本はコロナ収束後に訪れたい国のトップにランクされています。

また近年、「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されるなど日本の食文化への関心も高まっており、食の多様性への対応はますます重要性を増して来ることが予想されます。

そのような中で、今回作成したリーフレットは役に立つと思っています。今後は利用者の反応を見て、さらなる内容の充実を図っていきたくと考えています。



▲ 指差しリーフレット

特定非営利活動法人 ていあら

奈良市芝辻町3丁目5番35号
サンハイツ新大宮3階305号

【事業名】

医療的ケア・難病児者、障害児者、家族等の相談、交流事業

【補助金額】

190,000円

補助事業の実施内容

1. ALS(筋萎縮性側索硬化症)患者の子を持つ母親による講演

ALS患者の子どもを持つお母さんから、幼少時代の思い出や病気発症から今日までの闘病生活等、子どもの状況変化、母の思いなどをお話いただきました。

2. 障害児・者とその家族によるクリスマスリースづくり

障害児・者を持つお母さんたちが集まり、クリスマスリースづくりを行いました。普段は日常生活に追われ自分の時間を持ってないことも多いなか、自分だけの時間を作り、クリスマスリースができたことをとても喜んでいました。参加者から、今年のクリスマスは思い出が詰まったリースを飾ることができて楽しみとの声がありました。

3. 障害児・者の母親への美容師によるリラクゼーション

障害児・者を持つお母さんへ美容師がハンドマッサージ、ヘッドマッサージのリラクゼーションを行いました。日

頃、子どものお世話、家事、仕事などで多忙な参加者からはリフレッシュができたこと好評でした。

今後の活動に向けて

医療的ケア児・者、難病患者、障害児・者(以下、障害児・者等)を持つご家族は、障害児・者等のケアやお世話と自分たちの仕事、生活との間で、時に悩みや不安を持つことがあります。今後はそのようなご家族同士による座談会を催し、情報共有や意見交換の場を提供することにより、当事者・家族間のコミュニティの形成を支援していきたいと考えています。



▶ 次世代に向けて「点を線でつなぐ支援」

特定非営利活動法人 電子自治体アドバイザー・クラブ

奈良市秋篠早月町9
秋篠サンパレス 1-101号

【事業名】

ICTの強い街づくり

【補助金額】

190,000円

補助事業の実施内容

2か所でパソコン教室を開催した。

○学園前教室…下記内容を実施(全10回)

ワードによる図形と画像の入ったチラシ作り、インターネットを活用したブラウザの使い方、検索方法、YouTube・Googleマップなどの便利なサイトの紹介と使い方、メール作成・発信と受信・返信など一通りのメールの使い方、エクセルによる表作成の基本操作、四則演算・合計計算、印刷などの基本機能

○高田教室…「ちょっと中級」というタイトルで学園前教室よりは少しレベルの高い下記内容を実施(全12回)

ファイルやフォルダーの整理、Zoomの使い方、年賀状の文面作成と印刷、デジカメ・スマホからのパソコンへの写真の取り込み、Googleフォトを使った写真の楽しみ方、Facebookの使い方と楽しみ方

今後の活動に向けて

パソコン教室では時代の波にあった新たな機能を紹介した。また今日、スマホ利用も重要になっており、2021年度からは高齢者がスマホを使えるように、複数の拠点でスマホ教室の展開を図っている。これらの教室は単にともに学習するだけではなく、サロンとして楽しみながら学習できる場の構築を図りたいと考えている。

デジタル庁が発足するなど日本でもデジタル化の波が押し寄せている。しかし、高齢者はインターネット等を使えないことが多く、デジタル化の波に取り残される可能性が高い。そのためシニア層のICTのレベルを上げることによって時代の波についていけるように今後も活動したい。



▲ 高田PC教室実施状況

地域貢献サポート基金へ寄附することの3大メリット

①より良い社会づくり

多くの人の想いを団体の活動に繋げることで、地域や社会の課題解決を図ることができます。

②税制優遇

法人の場合、寄附の全額を損金算入できます。個人の場合、所得税の所得控除、住民税の税額控除があります。

③社会貢献の実践

寄附者名等は基金ホームページ等でご紹介させていただきます。

※匿名を希望される場合は、公表しません。

※企業のCSR活動としての活用ができます。